

第15号

熱田高同窓会報

発行
愛知県立熱田高等学校
同窓会事務局
TEL(052)-652-5858



同窓会ホームページ
URL:<http://www.atsuta.gr.jp/>

熱田高校ホームページ
URL:<http://www.atsuta-h.aichi-c.ed.jp/>



創立六十五周年を迎えて

同窓会会長 佐々木 元彦

緑滴る正門

会員の皆様におかれましては、ますますご健勝にご活躍のこととお慶び申し上げます。三月・四月は別れと出会いの時であります。第六十二回卒業証書授与式は、三月一日、二十一回卒の北角尚治校長の手で後輩へと卒業証書が授与されました。厳粛にして品格のある落ち着いた授与式でした。同窓会は全日制・定時制合せて三六七名を新たにお迎えできました。熱田高校は、地域社会から期待される進学校として発展してまいりました。昭和三十一年の第一回卒業生を輩出して以来卒業生は二万六千名を超え、各界で多岐にわたって活躍されております。また、希望に満ちた新入生は全・定合わせて三六〇名が熱田高校の門をくぐりました。

2011.3.11の大震災以後、絆という言葉が新聞紙上で目につきます。創立六十五周年記念を迎えるにあたって人と人との結びつきを示す「絆」について一言。私たちには、先輩後輩の絆・友と友の絆・部活動仲間との絆、同窓生・同期生の絆などいろいろな形があります。今の教育体制において、卒業高校を偽る事は不可能に近いと考えます。私たちは熱田高校卒業生は、これからも『熱田高校を卒業した』という看板を背負って生活して行きます。そこでどうでしょう皆さん。同窓会活動を旺盛にし、他高校に劣らない教育環境作りの応援団として、後輩諸君の勉学向上に資し、日々成長できる教育現場づくりのサポートをしませんか。そのために、「母校で語ろうホームカミングデー」の定期開催に参加し、OBとして母校を訪れ、教育環境現場を私たち卒業生がしっかりと視察して、老朽化した校舎やプールやグラウンドの改善に物申す団体へと進化してみませんか。

創立六十五周年記念事業等については、全会員へ送付「創立六十五周年記念総会・祝賀会のご案内」「熱田高校同窓会活動の実践」「創立六十五周年記念事業」の案内パンフレットに詳細が記載されておりますからご参照ください。より多くの方々の絶大なるご支援と協力なくしては目的を達成することはできません。募金目標一千八百万円を達成するため会員の皆様のご厚志を心からお願い申しあげさせていただきます。

最後に、熱田高校同窓会の更なる発展のため努力してまいります。皆様の賛同をいただき格別のご厚情を賜りますようお願い申し上げます。

平成二十九年五月吉日

光ありく校歌について

校長 北角尚治



熱田高校の校歌は荻原井泉水作詞、團伊玖磨作曲とい

曲家の手によるすばらしいものです。この校歌については、第九代校長の目下先生が、『校誌熱田』第三十八号に文章を寄せられています。この目下先生の文章に啓発されて、本校校歌についてさらに詳しく調べてみました。

荻原井泉水は自由律俳句を唱えた人で、五七五という音数や季語などにこだわらない俳句を求めました。その特徴が本校校歌にも伺えます。日本語の歌は、五七の音数で区切るものが多くあります。しかし「光あり／海ひろく／雲ひらけ／和やかに／朝至る／あかねさす／熱田なる」という校歌の歌詞はすべてが五音で区切れます。非常に特徴的です。荻原井泉水は校歌の制定を記念して、昭和三十年に本校で講演を行っています。そこで、五七五の俳句のリズムには角があるとし、「言葉をまるく卵のように表現するのが一層単純であり自然である」と述べています。五音の同じリズムが繰り返されるの

はまさに単純であり、まるく繋がっているように感じられます。さらに、團伊玖磨の曲もほぼ同じリズムが繰り返されます。井泉水の思いに呼応した曲と言えます。

「光あり」と始まる歌詞の「光」にも井泉水の思いが感じられます。彼は「句の魂は光であり、力である」と述べています。彼が俳句に求めたものは「内的生命の充実」という精神性でした。その句の魂として使われた「光」と「力」の二つの言葉はともに校歌に詠まれています。若人に対する強い期待を持ってこの校歌を作ったのではないのでしょうか。

荻原井泉水が本校校歌を作ったのは彼が七十一歳のときです。『私の履歴書』という本の中で「人生七十にして初めて楽し」と言い、古希のときに「井泉水時七十一」という落款を作ったとあります。校長室に井泉水自筆の校歌の額があります。そこに押されている落款は残念ながらこの「井泉水時七十一」ではありませんでした。「古希人井泉水」と読めるものでした。しかし、本校校歌は井泉水が自由な境地に至った中で作った、まさに彼の本質が詠まれたものだと考えるのではないのでしょうか。校歌について調べるうちにどんどん面白くなり、ますます校歌の魅力に取り憑かれました。

熱田高校の今

定時制課程の今

教頭 佐野好宏



「ただいまより、平成二十九年年度、第五十三回愛知県立熱田高等学校定時制課程入学式を挙行いたします。」これは、本年度の入学式の「開式の辞」です。今年度は三十二名の新入生を迎えました。数字を使いながら、以下に定時制の近況を報告させて頂きます。

一一九名。四月七日付の在籍数です。県内の夜間定時制課程普通科の中でも多数の生徒が熱田高校で学んでいます。

一〇五名。全校生徒のうち、熱田・港・南・中川区の四区から通っている生徒数です。近隣地区との関係が良好であることを示しています。十名。三月に卒業した四年生の数です。近年の大きな課題は、卒業生が減少していることです。しかし、前述したように在校生が増加していることで、一人でも多くの卒業生を出すことが、定時制の大きな役割だと考えています。

四十六名。これは、中学三年生の時に欠席が三十日以上あった生徒の

数です。中学時代に様々な事情で登校できなかった生徒が、熱定という新たな環境で「学びなおし」をしています。

平成二十八年度の生徒を対象にしたアンケートの「授業でわからないことがあると、ていねいに教えてくれる先生が多い」に対し、七割を超す生徒が「そう思う・ややそう思う」と回答しています。教員間では、「わかる授業の実現」を目指して日々努力しています。

五十三回と五十号。昭和四十年に定時制課程が開設してから五十三回目入学式でした。陸上競技の駅伝は前の走者から受け取ったタスキを次の走者へ受け渡します。『若人』は、昭和四十二年に創刊されて以来、駅伝のタスキのように脈々と受け継がれ、五十号の発刊となりました。

以下は、ある生徒の『若人』の原稿です。「熱田高校定時制に入りました。この学校に入った理由は、中学校であまり学校に行っていないからだったのでここに入りました。最初は、不安もありましたが、今では勉強も少しずつできるようになっていきました。友達も出来て、楽しくやっています。最近バイトをはじめました。学校では、苦手な英語や国語、勉強はあまり得意ではありませんが、自分の悪い所を少しでも変えたいと思います、が

んばりたいと思います。まだ大学か働くかまだ決められないですががゆっくり考えて行こうと思います。」
 熱田高校定時制課程の伝統を継承しつつ、教職員一同で、時代に応じた教育的課題に取り組んでいます。



創刊号を囲む近年の『若人』

生徒会活動の近況報告
特別活動推進部主任 山中洋一

部活動の活躍について

現在部活動は十七の文化部(同好会を含む)、十の運動部があり、放課後を中心に活動をおこなっています。運動部では、昨年度総体で、卓球部の個人ベスト8、団体県ベスト16を始め、柔道部(個人・団体)、サッカー、陸上部が県大会に出場しました。新人戦では、ハンドボール部女子が県大会に出場し、ベスト16に入りました。今年も総体で、ハンドボ

ール部女子、テニス部女子(団体)が県大会出場を決めています。県大会に残念ながら出場できなかった部も、日々上位の大会出場を目指して頑張っています。

文化部においては、吹奏楽部が中部日本個人重奏コンテスト(スネアドラム独奏)にて、県大会金賞、本大会銅賞を受賞しました。

第六十四回熱高祭について

「熱魂 みんな主役でみんな脇役」をスローガンとして、昨年九月七日・九日・十日の三日間、熱高祭が開催されました。

文化部では、土曜日の一般公開日に千二百名を超える一般客を迎えました。体育館ステージではユーモアあふれる劇が、野外では、担任の先生の車の実寸大模型が、来場者の目を楽せました。

初日に予定されていた体育祭は、前日の降水確率百パーセント、誰もが延期になることを予想していました、しかし、生徒・先生の思いが通じたのか、当日は雲一つない絶好のコンディションとなり、大きな怪我もなく無事に行うことができました。今年の熱高祭も昨年以上にレベルの高いものになるよう、生徒会・各委員会を中心に頑張っていこうと思っています。



文化祭 クラス集合写真



体育祭



女子の騎馬戦

昨年度の合唱祭

一昨年度、名古屋市教育センターが外壁工事で使用できなかったため本年度の教育センター使用は、一・二年生にとつて、初めての会場となりました。音響設備が整った会場です。昨年以上に素晴らしい合唱を期待していました。会場の下見、センターの職員との打合わせも終え、全てが順調に進んでいるように思われました。しかし、合唱祭一週間前からインフルエンザが流行し、当日、三分の一以上の生徒が欠席したクラスも複数ありました。人数不足で練習の成果が十分に発揮できなかったことは非常に残念でした。

今年度は、生徒が万全の状態で開催できるよう願っています。



合唱祭

29年度

愛知県高校総体サッカー大会結果
 三回戦 熱田2 - 3 中京大中京延長戦の結果敗れる。

進路指導部の当面する課題

進路指導主任 神谷 久

熱田高校は伝統的に部活動と学校行事が活発です。この伝統は今でもしっかりと受け継がれており喜ばしい限りです。しかし、学習・進路の面においてはどうか。先輩方が在籍していた頃と比べて、学習時間・集中力・勝負根性などは減少しているようです。三年生の後半まで進路決定の本格的な行動を起こせず、本格的学習のできない生徒も近年増加しているように思われます。低学年のうちから進路意識の高場を図るために、「スタディーサポート」という基礎学力と学習習慣の定着度を診断する学習教材が新たに導入されました。一・二年生での学習の量・内容・習慣・理解度・定着度といったものがいかに重要であるかを自覚させることが狙いですが、効果がでるのは今後の活用によります。

近年、大学入試制度の変化はめまぐるしく、AO入試・推薦入試の拡大、一般学力入試の多様化・複雑化など、我々教員でも把握しきれないくらいになっております。大学入試の結果予測も読みにくく合否判定がなかなか難しい状況になっています。それゆえ、生徒の進路選択も、とにかく早く決めてしまいたいという気持ちが強くなり、国公立大学を目指す

せるだけの学力を有しながらも、私立大学の推薦入試に流れてしまう生徒もかなり存在します。

低学年のうちからの学習習慣を確立させ、入試の状況を的確に分析して合否予測をたて、生徒が少しでも高い目標に向けて安心して最後まで頑張れる体制を確立することが、熱田高校の進路指導の当面する課題となっています。

昨年度は、国公立大学合格者数二十六人（内現役十九人）と、一昨年度の近年での最多合格者数記録から大きく後退しました。今後、再び勢いを取り戻し持続していけるように、生徒が自信を持って本来の力を十分に発揮できるように努力していきたくと考えております。



過去3年間の卒業生の進路別実数（現役生のみ）

年度	4年制大学		大学校	短期大学	専門学校	就職		家事従事	その他	浪人	合計
	国公立	私立				公務員	民間				
28	19	238	1	10	44	3	1	0	0	41	357
27	28	207	1	12	37	1	2	0	3	27	317
26	15	207	0	19	50	2	3	0	1	24	317

過去3年間の地元主要大学の合格者数

年度	大学 (%)	専門 (%)	南山	愛知	名城	中京	愛知学院	愛知工業	中部	愛知淑徳	金城学院	相山	国公立	浪人
28	74.7	12.4	70	59	54	85	57	27	45	35	13	24	19	41
27	77.6	11.7	13	49	47	77	87	12	32	51	9	10	28	27
26	74.8	15.8	35	80	32	48	100	14	38	62	12	9	15	24

過去3年間の卒業生の国公立大学合格者数

平成28年度			平成27年度			平成26年度		
現役生	過年度卒生		現役生	過年度卒生		現役生	過年度卒生	
名古屋工業 1	名古屋工業 1		名古屋工業 1	名古屋工業 3		名古屋 1	名古屋 1	
静岡 1	豊橋技術科学 1		愛知教育 3	三重 1		愛知教育 1	名古屋工業 1	
岐阜 1	信州 1		岐阜 1	富山 1		岐阜 1	愛知教育 1	
三重 2	金沢 1		三重 1	筑波 1		三重 1	三重 1	
富山 2	富山 1		信州 1	広島 2		山梨 1	静岡 1	
福井 1	茨城 1		富山県立 1	山口 1		富山 1	一橋 1	
埼玉 1	島根 1		福井 1			香川 1	岡山 1	
宇都宮 1			室蘭工業 1			宮崎 1	愛知県立 1	
愛知県立 5			鳥取 2			愛知県立 3	下関市立 1	
愛知県立芸術 1			愛知県立 4			名古屋市立 1		
名古屋市立 1			三重県立看護 1			都留文科 1		
静岡文化芸術 1			静岡県立 1			新潟県立看護 1		
福知山公立 1			都留文科 1			長崎県立 1		
			富山県立 4					
			福井県立 1					
			秋田県立 1					
			京都府立 1					

資料として、『過去三年間の卒業生の進路別実数』『過去三年間の地元主要大学の合格者数』『過去三年間の卒業生の国公立大学合格者数』を載せておきます。



熱田まつり 6/5

がんばれ熱高生

今回は四人の先生方に原稿を依頼しました。教頭としてご尽力され、人事異動で名古屋南高校へご転出された阿部邦彦先生。長年に亘って進路指導主任として、お世話をいただいた都筑秀夫先生。このたびご退職された杉藤充彦先生（二十回卒業生）、小島正嗣先生からのメッセージをいただき、熱高生のための心の内を語っていただきました。

将来の夢に日付を

教頭 阿部邦彦



二年前に熱田高校の校門をくぐった時、本当に嬉しく思いました。それは亡き父が、神宮前の商店街でレ

コード店を経営していたので、いつも父の仕事について行った私の幼少時代の遊び場は、熱田神宮と神宮前でした。亡き父が、私を熱田高校に呼んでくれたのだと思うようになってきました。どんな暑い日も寒い日も部活の朝練習に向かうために必死に自転車を出勤してました。朝七時にはすでに練習を開始している熱高生を見、

て、私も頑張らねばと励まされたものでした。この地味な毎日のルーティーンこそが熱高生が輝く理由である。と何度も思いました。あれだけ朝から練習して疲れているのに、私が授業で教えている運動部員は寝ることもなく勉強に取り組んでいました。OBからの温かい支援や六十四年の伝統が熱高生を守り成長させてくれているんだと、この二年間のいろいろな場面で感じるようになりました。最後に熱高生に思うことは、自分の将来の夢に日付を付けて欲しいと思います。一年後には、これだけのことをやり遂げよう、十年後にはこの仕事に就いて頑張っていたいとか、日付をつけて努力することが大切であると思います。そうすれば今、自分が何をすべきか分かるはずですよ。

二年間大変お世話になりました。陰ながら熱高生の活躍を願っています。

いざとなったら馬耳東風

教諭 杉藤 充彦



せっかくこういう機会をいただいたので、まず私の名前に見覚えがある卒業生の皆さんに

向けて、離任式での退職の挨拶を書きます。「なるべく短く三分ぐらいで」という縛りで考えたものです。今日は一言お礼を言いに来ました。ここにいらっしゃる皆さんは、過去に私が教えた生徒たちの代表として聞いてください。私は長年クラス担任をしてきました。三十年以上もクラス担任をやっているといろいろな生徒がいまいます。いろいろな保護者がいます。特に最近、筋の通らない非常識な事を言う親が増えてきました。そういう親に当たった時には、正直めげろしへこみます。くじけそうになります。そんな時に頭の中に甦ってきたのは生徒たちの声でした。「あの時の先生の言葉のおかげで今の私があるのです。」「先生、俺、やっぱり先生のクラスがよかったです。」「先生うちの子ね、（これは親の言葉）今年

も先生のクラスだったってすごく喜んで帰ってきたんですよ。」そういった私への思いが、私を励まし支えてくれました。本当にありがとうございます。私の好きな言葉に『人は、自己の存在を他者の存在によってのみ確認できる。』という言葉があります。他者は他人の他（た）、者（しゃ）は忍者の者（じゃ）です。他人と読み替えてもいいでしょう。『人は自己の存在を他者によってのみ確認できる。』私は生徒という他者によって自己の存在を確認しつつこれまでやってこれ来ました。本当にありがとうございます。やうなら。』

次に“がんばれ熱高生”に合わせて少し。私の身近な人で会社の猛烈な引き留めに遭って転職を止めた人とそれでも転職した人がいます。（ちなみに意志を貫いて転職した人は今では役付きになっています。）何が言いたいか。転職でも会社を辞めることでも決して楽ではない。でもいざとなったらやるべきだ。大きく進路を変えようとした時にはあれこれ言われる。言われなくても気になる。でも何言われても馬耳東風、自分を責めるような内なる自分の声も聞き流す。結局どうなるかは分からない。でも少なくとも後悔しなくて済む。自分を救える。

私は愛知県の教員採用試験に二回落ちて、私学に採用され、友人の勧めもあって大学があった神奈川県採用試験に受かって採用され、それでもどうしても故郷の名古屋に帰りたくなって愛知県の教員採用試験を受け直し、何とか合格・採用にこぎ着けました(補欠合格だった)。鞍替えした時には「生徒のことを考えたのか」などとあれこれ言われた。私の場合はず先の進路先の合格があったからまだ振り切るのは楽だったけれど、やはり周囲の声は今でも耳に残っている。

普段はともかく、転職や仕事を止めたりする場合には、いざとなったら馬耳東風、何を言われても気にしない。平時からその覚悟を。



感謝の六年間

教諭 小島正嗣

教員生活の終盤
六年間を熱田高校
で勤務、退職を迎
えました。

六十歳に近づくにつれ、うっかりが多くなつた私に、優しく接して下さった職員の皆さんに心から感謝しています。熱高生は、親しみやすく気取らない人柄で、おじさん緩キャラ CozyKoji を優しく許容してくれ、

ありがたく思っています。

熱田高校の同窓の方の中には、第七代校長の三輪敬一先生、数学の野澤正紀先生・濱島清治先生をご存知の方もいらつしやると思います。若い頃大変お世話になりました。また私の友人には熱田高校で勤務された先生が多く、熱田高校に転勤し嬉しく思います。

熱田高校の正門前にある船方公園で四季折々の風景を観ながら、ぼんやりするのが好きでした。鮮やかな新緑・鳥のさざめき・散歩の犬・枯れ葉のじゆうたん、冬の透き通った青空。三十歳頃から自然の中に居るのが大好きになり、三〇〇〇mを超える岳に取り付かれましたが、この六年は船方公園の四季が和ませてくれました。



先日船方公園一面に広がる落ち葉を見ながら、ふと思いついた事があります。以前はあちこちで落ち葉掃除の後に、落ち葉焚きをしたりしました。火を付けると次第に勢いを増し力強く燃え上がり、やがて衰え煙りながら消えてゆく。

私の熱田高校での六年間が、願わくば落ち葉焚きの最初の十五分であ

れば良かったのになあ……そんな事を思う、この数年でした。

若さは教育の場面では、強いアイテムです。一方で年を重ねる事で、経験や諦観というアイテムが身に付きました。熱田高校の重要な表舞台を支える皆さんの横に控えて、何かしらの役目を果たす。それが自分の役割だったなあ。最後に少しだけ自分を褒めて退職しようと思います。

第二の母校「熱田高校」

教諭 都筑秀夫



私は熱田高校では十二年間お世話になりました。歴任校の中では最長の在職期間です。

赴任した当初は、これほど長く熱田にいるとは思っていませんでした。しかも、進路指導主任を七年間も。というのも、熱田への異動を聞いた時、手放して喜んだ訳ではなかったからです。

私は高校・大学を通じてラグビーをやっていました。高校教師という職を選んだのもラグビー部の指導をしてみたいという思いからでした。しかし、熱田に転勤する前の学校はいつでもラグビー部はなく新設することもできず、四十歳を目前にして次こそはラグビー部のある学校へと

思っていたところでの、熱田への転勤だったので。赴任当初は目標を失いかけていた私でしたが、熱田の生徒と接していくうちに新たな喜びを見つけることができました。熱田の前は二校続けていわゆる困難校に勤めていたので、授業をするのも大変でしたが、熱田では生徒たちに手をかけてやればやるほど伸びていき日本史がわかるようになったという生徒の声を聞いたりするとやりがいを感じるようになりました。生徒たちの素直さ・人柄の良さに触れるうち、いつしか熱田に来てよかった、ずっと熱田でもいいよな、と思うようになりました。この春、高校時代を過ごした母校の松蔭高校に転勤しましたが、教員人生も残り九年の私にとって、最長の年月を過ごした熱田高校は「第二の母校」いやそれ以上に、教員としてはここが私の母校です。

熱田高校の生徒はまだまだ無限の能力を秘めていると思います。日本の模擬試験では、名西や松蔭や千種などを上回ったこともあります。「やればできる熱高生」から「やつたらできた熱高生」へのさらなる進化・発展を期待しています。頑張れ私の第二の母校。



同期会便り

同期会での歴史散歩

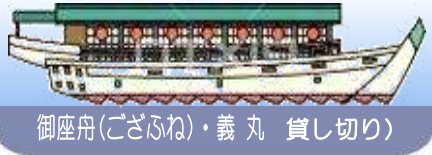
六回生 道清 吉美

六回生は、「もうすぐ喜寿」・「東京オリンピックまで三年」・「リニア新幹線まであと十年」古きをたずね新しきを知り、時の流れを語り合う：と云うふれ込みで、「川下りと歴史散歩」を七回目の同期会として平成二十九年四月二十日(木)に開催しました。

同期会では、二度目のチャレンジということ、今度は、『ふるさとあつたのこともっと知っておこう』と、納屋橋から港までの堀川下りと、地元熱田周辺の歴史散歩という企画をし、多くの仲間の参加を期待したのですが、参加者は貸切催行人数二十名ぎりぎりでありました。

幹事として は、もう少し多くの人に参加して欲しかった、というのが本音でありましたが、返信ハガキや電話での返事は、それぞれ家族の健康や体調の問題を抱えていて、約三キロ、二時間の散歩コ

宴会・江戸時代の風雅を楽しむ



御座舟(ござぶね)・義丸 貸し切り

スを考えて、いたし方ない事かと納得した次第です。

それでも、前半の川下りは、屋形船の宴席に着いて、さっそくの乾杯で懇親会の始まりとなりましたが、皆さん初めての経験なのか、興味津々で、料理も語らいもそこそこに、両岸の街並みやくぐる橋を見やりながら、堀川下りを楽しんでいました。

後半は、断夫山古墳からはじまり白鳥御陵を経て、熱田神宮こころの小径への、歴史散歩となりました。これも初めてのコースとあって、語り部の一夜漬け話を、興味深く聞いていただけただけなことには、当方幹事も旧友のために、すこしはお役に立てたかと思えます。

語り部の立場から言えば、仲間の歩行がゆっくりであったこと、人数が二十名程度であったことから、文化的イベントを考えた場合、このような人数が手頃であったのかなと思えます。

歩きながらでも、久しぶりの旧友との思い出話に花を咲かせることができましたし、皆さん多方面に亘り、元気でハツラツと暮らしていることを聞き、楽しいひと時を過ごすことができました。

わたくしも、旅行が趣味で、名所旧跡や郷土料理を求めて、仲間と車で走り回っています。日頃は年齢のことなどあまり意識することもないけど、あらためて考えてみれば、七五歳は立派な高齢者であり、感慨ひとしおのものがあります。最近、やれ逆走だとか、アクセ

ルとブレーキを踏み間違えたとか、高齢運転者の交通事故が増えており運転免許返納が話題になってきております。

何となく寂しい気もしますが、いつまで車の運転ができるのか一抹の不安があります。

当然かもしれないけれど、加齢とともに心身の老化や物忘れは避けられない。

元気に集まるときは随時、同期会を開催することを基本に、今後の生活の糧となるよう継続したいと思えます。

特に同時期に青春を過ごした同窓、同期の仲間たちとの交流は理屈抜きに楽しい。

それなりに歳を重ね、見た目は変わった部分があっても、話し始めるとすぐに学生時代に戻って話が盛り上がるから・・・。

いずれにしても、時の移ろいを語り合うには限られた短い時間でした。しかし皆さん、大いにリフレッシュを図ることのできた同期会であったと思えます。

最後に、神宮きよめ茶屋において、熱田高校創立六五周年同窓会の盛會と、皆さんの健康を祈念して、コーヒード乾杯して散會となりました。

史跡散歩経路

- 白鳥公園船着場
- 断夫山古墳
- 白鳥御陵(日本武尊伝説)
- 熱田神宮本殿
- 一之御前神社
- こころの小径
- 清水社(楊貴妃伝説)
- 土用殿(草薙の剣)
- 信長塚
- 弘法大師の大楠
- きよめ茶屋…解散

五十年ぶりの同期会

十一回生 中村日出夫

平成二十八年十月二日 金山駅南口に近いサイプレスガーデンホテルにて同期会を開催しました。

五十年振りの会は、発起人十五名の協力で六カ月前から、名簿の整理や打ち合わせを重ね、恩師二名(英語科渡辺寛先生・体育科西垣完彦先生・社会科大竹由紀子先生)を含み八十七名が集い楽しいひとときを過ごしました。発起人の都筑正実さんには卒業時の写真入り名札を作っていただけ新・旧の顔を見ることができ大変好評でした。

恩師の大竹由紀子先生(旧姓吉村)は大学卒業と同時に政治経済の先生として赴任され、その後、総務省の行政相談員を勤められ、昨年藍綬褒章を授与されました。若く美しい吉村先生に対して、たわいないいたずらをすることが、先生には懐かしい思い出となって残っている御様子でした。

服部政一さんからは、息子(剛丈)さんのことが語られました。剛丈さんは高校生の時アメリカへ留学され、ハロウインの祭りの時、銃撃されました。連日新聞報道されたことが思い出されます。政一さんは、それを機会に『アメリカの社会から銃を廃絶しよう』と立ち上がり、YOSHI基金を創設しました。アメリカの高校生を招き彼らに、銃の無い日



前列中央左から大竹・渡辺・西垣先生

サッカー部OB総会を開催して
21 回生 福島敦史

本の社会を体験してもらい、『アメリカの家庭から銃をなくす運動を続けている』という話でした。
二時間の飲み放題もアツという間に過ぎました。ピアノ伴奏に合わせて校歌を歌い、加藤和男さんの音頭で中締めをし、再会できることを願いつつ閉会となりました。
最後になりましたが、発起人に感謝いたします。



平成二十二年以来の開催となるサッカー部OB会総会が六月十九日にご来賓・OB・関係者約八十名が集まり、金山サイプレスガーデンホテルにて盛大に開催されました。OB会は昨年三月の卒業生を含めて千百人を超えるまでになりました。それに合わせてOB会幹部の若返りを図るべく有志が一昨年秋から会の活性化を目的に、毎月打合わせ会を持ち準備を進めて当日を迎えました。梅雨空の中大勢の方にご参集頂き、予定通り開会宣言、佐々木元彦会長の挨拶に始まりご来賓挨拶。続いて青木宏憲監督(二十三回生)による現役の活動報告、父母会代表の畝山さとみ様の乾杯で懇親会に入りました。懇親会では歴代マネージャーの紹介・現在ルーマニア・プロリーグで活躍中の瀬戸貴幸君(四十九回生)からのビデオメッセージが披露され、OB会による瀬戸君応援の後援会も発表されました。「アツ」という間に楽しい時間も過ぎ、校歌斉唱・万歳三唱、そして参加者全員での記念撮影、閉会・散会となりました。
サッカー部OB会の活動は、四十歳代・五十歳代のシニアチームとしての活性化、愛知県高校サッカーOB選手権大会参加の支援、小学生対象の「ふれあいサッカー教室」の運営、開校以来、伝統を引き継いで毎年元旦に開催される『初蹴会』の活性化・現役部員への支援などが話され、引き続き熱田高校運動場の人工



還暦が近い21回生の同期会
二十一回生 佐々木博

早いもので、熱田高校を卒業して四十年の年月が過ぎました。卒業生も二万六千人を超えたそうです。新しく同窓生になられた六十二回生の皆さん、自分の在学中の出来事を覚えていますか？ 今回、原稿の依頼を受け私たち二十一回生の三年間の思い出を振り返ってみました。

昭和四十八年四月入学。初の学校群制度の導入で熱田は九群(惟信と熱田)、十群(熱田と瑞陵)に配置され、それぞれの群から半数が熱田高校に合格しました。五月の遠足は谷汲山、六月には音楽鑑賞会(名フィル)があり、夏休みのキャンプ訓練は戸隠へ(自由参加)、十二月には映画鑑賞、冬休みのスキー訓練は梅池(自由参加)でした。

芝化実現に向けても引き続き取り組んでゆくことが確認されました。住所変更などで連絡の取れないOB会員の方は、ぜひ以下のホームページにアクセスしてOB登録をお願いします。連絡をお待ちしております。

歴代女子マネージャー



<https://fc-atsuta-ob.jimdo.com/>

昭和三十九年二年生になると、五月の遠足は關荊溪谷、六月には歌舞鑑賞(わらび座)。夏休みのキャンプ訓練は戸隠高原へ。十月には修学旅行(軽井沢・上高地など)、十二月の音楽鑑賞、冬休みのスキー訓練は山田牧場へ。個人的には、サッカー部が、八月インターハイ出場(佐賀)、一月には全国高校選手権大会出場(長居)に出場しました。サッカー部員の一人として応援に行きました。昭和五十年三年生に入ると、六月の遠足は愛知青少年公園、七月の音楽鑑賞会(名フィル)、夏休みキャンプ訓練は戸隠へ。八月、サッカー部はインターハイ(葦崎)に出場しました。十二月映画鑑賞、九月の熱高



祭・文化祭は、三年間本当に学生時代を代表する一大行事でした。学校行事も年月を経て、現在は変わってきていると思いますが、学生時代の思い出としてはいつまでも心に残っています。

昨年、卒業後四十年にして同期会を開催しました。クラス会や部活等の会は今までもありましたが、二十一回生全体として同期会は初で、多くの皆さんに参加していただき、学生時代の話題で盛り上がり盛会でした。

今年、還暦を迎えるにあたり、「二十一回生還暦同期会」を六月に開催します。前回以上の会となるよう、この場を借りて、多くの仲間の参加をお待ち申し上げます。



愛知県立熱田高等学校同窓会 創立65周年記念総会・祝賀会のご案内

熱田高同窓会活動の実践

・会員名簿の充実

会員名簿は同窓会の財産です。個人情報の取り扱いには細心の注意を払って充実してまいります。

・同期会の開催には通信費等の補助をいたします。

これから同期会を開催される場合は、同窓会事務局にご相談ください。現状の住所録の提供と通信費等の補助をさせていただきます。

・同窓会報に関して

過去、経費節約のため5年ごとの総会時に発行しておりましたが、ホームページを利用した発行に切り換え、年2回の発行としております。

・ホームカミングデーの充実

平成30年度夏、11回生～20回生を中心に実施いたします。対象回生の多数の参加をお待ちします。

・同窓会関東支部・職域支部の発足

・校庭の人工芝化に向けて

軟弱な校庭の人工芝化に向け、平成26年度から取り組んでおりますが、「創立70周年の完成実現」に向けて更なる一歩を工夫し進めていきます。

・在校生の「海外交流」にむけての研究

創立65周年記念事業内容

- 会員名簿の作製。
- 「同窓会報」年2回発行の充実を図るために「会報部会」の編成を図る。
- 「ホームカミングデー」の継続性を持たせるための予算の確保を図る。
- 「同期会」開催の販促を図り、年間予算50万円を上限に予算化する。
- 同窓会「関東支部」「職域支部」の必要経費の援助を図る。
- 熱田高校の看板設置（写真参照）をする。
- 熱田高校正面玄関へ懸垂幕掛（写真参照）を設定する。
- 優勝旗等の展示設備を整備する。
- 熱田高校の全門扉を塗装する。
- 在校生の「海外交流」に向けての研究。



新幹線から見た熱田高校の看板

記念募金等についてのお願い

目標額 1,800万円

1. 募金 1口 2,000円（できるだけ2口以上）
5口以上（会員名簿贈呈）
2. 会員名簿に広告掲載募集（会員名簿贈呈）
広告掲載をご希望の方は、各期役員・廣濟堂事務局までご連絡ください。
広告掲載申込書・振込用紙をご送付します。
A4 1ページ 70,000円 A4 1/2ページ 40,000円
A4 1/4ページ 25,000円

キリトリ線

愛知県立熱田高等学校同窓会

創立65周年記念総会・祝賀会のご案内

日時 2017年11月12日(日) 受付 13:20～
14:00 総会開催～ 14:30 祝賀会～

会場 名古屋国際ホテル 国際ホール

会費 10,000円(当日徴収)

役員一覧

- 会 長 佐々木元彦 1
- 副会長 波田 忠 1
- 中野 道孝 2
- 岩淵 正憲 3
- 田中 省三 4
- 西田 和子 5
- 道清 吉美 6
- 小林 勝治 7
- 井上 亜夫 8
- 武藤 史子 9
- 近藤 一磨 10
- 中村 日出夫 11
- 森田 文二 12
- 真木 伸一 13
- 福島 義広 14
- 石田 直城 15
- 伊藤 武博 16
- 柿崎 賢一 17
- 山口 直彦 18
- 木村 隆秀 19
- 鬼頭 美子 20
- 佐々木 博 21
- 奥田 隆庸 25
- 近藤かをり 26
- 野崎 時資 29
- 山田 太郎 31
- 樵山 泰久 36
- 高橋 孝次 定8
- 事務局長 万前 秀男 6
- 書 記 谷澤 伸 11
- 小倉美津夫 16
- 畑中 正憲 26
- 会 計 神谷 和雄 15
- 山口 実徳 定9
- 監 査 恒川 良三 19
- 森 久勝 定1
- 学校幹事 ☆ 青木 宏憲 23
- 鈴木矢代子 21
- 川辺 浩 23
- 野村 弘昭 42
- ☆印(熱田高校勤務者)
- 印=新規役員
- ☆印=代表幹事



佐々木元彦会長 挨拶

平成 29 年度 第 1 回 役員会 議事録
 日時：平成 29 年 6 月 5 日 (月)
 午後 6 時 30 分~8 時 10 分
 開場：名古屋国際ホテル
 出席者：30 名

- 1 号議案 会報 15 号の発刊内容に関して
- 2 号議案 創立 65 周年記念事業案内に関して
 募金部会・名簿部会・式典部会
- 3 その他

平成28年度

愛知県立熱田高等学校同窓会会計収支決算報告

(平成28年4月1日から 平成29年3月15日まで)

収入の部	円
前年度繰越金	3,621,697
入会金 全日制 62回生 356名×@6,000円	2,136,000
〃 定時制 49回生 13名×@6,000円	78,000
普通預金 利息 2件 (8月分)	28
合 計	5,835,725 ーa
支出の部	
会員データ 管理費 2件	62,656
寄 贈 全日制62回生・定時制49回生 ミニ会員名簿	108,864
〃 卒業証書入ホルダー (全日制・定時制)	188,364
〃 学校説明会用クリアファイル 1,650枚	106,920
助成金 定時制・通信制教育振興会費 5口×@2,000	10,000
〃 同期会等(11・14・20・21・26・60回生・部活動OB会サッカー)	248,021
会議費4件 (役員会・幹事会)	571,570
会報14号製作費 一式	191,676
慶弔費4件 (副会長 豊田和弘氏・会計 後藤文方氏、慶事2件)	76,722
通信費 10件	23,850
事務用品 11件 (会報用原稿用紙 別注含む)	35,416
雑費 5件 (謝礼3件・図書券1件)	27,892
合 計	1,651,951 ーb
次年度繰越金 (名古屋銀行六番町支店普通預金残高 a-b)	4,183,774
積立金として (千年郵便局定期預金)	6,255,000

平成29年3月20日、上記のとおり、会計報告をします。 会計代表 神谷和雄
 執行担当者 万前秀男 青木宏憲

平成28年度会計における証拠書類並びに会計帳簿を精査したところ、正確に処理されていることを認めます。

平成29年3月29日 監査代表 恒川良三

教職員異動

平成 29 年度 退職者・転出者及び
新転任者一覧

○退職者（敬称略）

（全日制）

- 杉藤 充彦 教諭
- 小島 正嗣 教諭
- 鈴木 豊 教諭
- 成田 純子 教諭

（定時制）

- 井上 十茂子 調理員

○転出職員（敬称略・転出元）

（全日制）

- 阿部 邦彦 教頭 (名古屋南高)
- 寺田 佳弘 事務長 (名古屋豊)
- 宇佐美 祐貴 教諭 (名古屋西高)
- 都筑 秀夫 教諭 (松蔭高)
- 早川 修平 教諭 (天白高)
- 大橋 昭紀 教諭 (天白高)
- 酒井 一樹 教諭 (昭和 high)
- 飯田 典子 養護教諭 (名古屋南高)
- 榊原 弘康 主査 (緑丘商業高)
- 高宮 幸子 主任 (尾北高)
- 河田 浩一 教諭 (城北つばさ高)
- 愛知 輝樹 教諭 (日進西高)

○転入職員（敬称略・転入元）

（全日制）

- 清水 貴子 教頭 (生涯学習課)
- 森清司 事務長 (長久手高)
- 植田 新一 教諭 (瀬戸窯業高)
- 杉崎 雄一 教諭 (旭陵高)

事務局だより

- 田岡 史吉 教諭 (惟信高)
- 前田 昌美 教諭 (大府東高)
- 前田 恭平 教諭 (中村高)
- 近藤 悠介 教諭 (新規採用)
- 中山 朋乃 養護教諭 (中川商業高)
- 坊 美代子 主任 (津島高)
- 松田レイザ 主事 (名古屋北部県税)
- （定時制）
- 寺川 眞司 教諭 (明和高)
- 内田 啓介 教諭 (常滑高)

会員名簿 2017 年版の申し込み

創立六十五周年記念版会員名簿は平成 29 年 11 月発刊の予定です。注文後の印刷販売で、増刷の予定は全くありません。購入を希望される方は、**創立 65 周年記念総会・祝賀会のご案内ハガキ**を利用され、ご購入くださるようお願い申し上げます。なお、ご購入をされた方は「会員名簿」の管理について、個人情報流出しないよう十分なるご留意をいただきたくお願い申し上げます。

業者からの名簿の問い合わせ（進路先・住所・電話等）には同窓会は一切お答えしません。母校職員を装い、電話で進学先・住所・電話番号などを聞きだす者がいるようですが、母校及び同窓会ではそのようなことは一切しておりません。

会員名簿に関しましては、同窓会（株）廣済堂に依頼しております。それ以外は、母校及び同窓会とは一切関係ありませんのでご注意ください。もし、ご不審な点がありましたら、（株）廣済堂または事務局までご連絡ください。

なお、名簿は同窓会会員のみにしか販売していません。



29 年 11 月 発刊予定
表紙の色は検討中

計 報

伊藤 時三	三回生	28	1
近藤みゆき	二十九回生	28	4
富田 尚義	六回生	28	6
二村 益光	四回生	28	7
後藤 文方	定二回生	28	7
古田 太一	七回生	28	8
吉山 信成	二十九回生	29	10
			30

逝去に接し、謹んでご冥福をお祈り申し上げますと共にお知らせいたします。（係より）

クラス幹事の皆様へ
訃報は悲しい出来事ですが、事務局まで葉書でご連絡ください。

あとがき

今年「会報」を年二回発行する予定であります。

前半の 15 号は進路状況・生徒会活動・「同期会」の報告。そして「がんばれ熱高生」は、今年退職・転勤された先生に原稿をご依頼しました。後半の 16 号は 65 周年記念総会が開催されますから周年記念の報告や様子を中心に構成する予定です。

最後に、「会報」を作るにあたって一番苦労する点は、どなたに原稿を依頼するのか、会員の皆様が、今何を会報に求めておられるのかということ。内容でお気づきのことやご意見のある方は会報係・事務局までお知らせください。



堂章

堂章のみどりは、楠の葉を型どった三本の木々に、本校が教育目標とする品格ある人間、気力ある生活人、健康なる日本人を、また、全体にはきよき森を表わして、心の啓示とし、その育成と生々発展とをこい願っている。

題字 初代書道教諭 名郷紫山